

オリジナル英語学習用ポッドキャストの授業での活用

榎 田 一 路

広島大学外国語教育研究センター

はじめに

広島大学外国語教育研究センターでは2008年度から、筆者と Joe Lauer 准教授による英語学習用ポッドキャストのサービス“Hiroshima University's English Podcast”¹⁾を開始し、現在も広島大学の学生および一般利用者を対象に、インターネットを通じて毎週教材配信を行っている。これまでも本サービスに関しては、予備調査の実施 (Lauer 2008, 榎田 2008), 先行サービスの分析 (Lauer 2008), コンテンツ配信システムの構築 (榎田 2009), コンテンツに関する学生からのフィードバック (Lauer 2009) 等について報告を行ってきた。

本報告では、筆者が (CALL 教室ではない) 普通の教室での授業において、同ポッドキャストを自学自習用教材として利用した際のアンケート調査に基づき、ポッドキャストを授業に活用することの有効性を探る。

1. ポッドキャストイングと大学英語教育

ポッドキャストイングとは、インターネット経由でパソコンや、iPod などのデジタルオーディオプレーヤ (DAP) に音声や動画を配信する技術である。その原理は、MP3や MPEG4など汎用性の高いメディアファイルと、その更新情報を記載したテキストファイル (RSS フィード) を組み合わせることにより利用者に情報を送信する、いわゆるプッシュ型配信である。利用者は、iTunes など RSS フィードの情報を受信するためのソフト (アグリゲータ) により、新たに更新されたコンテンツだけを効率的にダウンロードすることが可能である。その名前からポッドキャストは iPod がなければ利用できないと誤解されることも多いが、インターネットに接続されたパソコンがあれば利用できる。ポッドキャストイングでは、複数のコンテンツを効率的に受信できるだけでなく、情報の送り手となることも簡単である。パソコンの高性能化により、高品質なメディアファイルが非常に容易かつ安価に作成できるようになり、RSS フィードもいわゆるブログツールなどを使えば自動的に作成してくれるので、プロ・アマチュアを問わず、ポッドキャストイングによる情報配信は急速に普及しつつある²⁾。

現在インターネット上では数多くのポッドキャストが提供されており、英語学習用番組、ネイティブスピーカ向けの番組を含め、多様なレベルとトピックの英語ポッドキャストから自由に選んで学習に活用することが可能となっている。ポッドキャストを英語学習に活用するメリットとしては、無料であること、レベルと興味にあったコンテンツを選べること、いつでもどこでも聴けること、学習という意識を持たずに気軽に利用できること、ダウンロード後は自由に利用可能である³⁾ ことなどが挙げられる。またポッドキャストを授業で活用することによる教授者のメリットとしては、メディアの大量コピーが不要であること、教材使用にかかる著作権処理が不要であること、RSS フィードによるプッシュ型配信を学習の「ペース・メーカー」(池田 2008) として利用できること、パソコンとマイクさえあればオリジナル教材を容易に開発できることな

どがある。英語教育、とりわけ大学英語教育においては、限られた授業時間の中で多数の学生を相手に英語力を伸ばすための働きかけを行う必要があるので、授業でポッドキャストを利用することで、コストや手間をかけず、継続的な自学自習を促し、学習の絶対量を確保するのに役立つと考えられる。

一方で、大学生の間でのポッドキャストの認知度は決して高いとは言えず、榎田（2008）の大学生を対象とした調査では、その半数以上が「ポッドキャストが何なのか分からない」と答えている。またポッドキャストによる英語学習用番組のほとんどが民間あるいは個人発のものであり、日本国内の大学発の英語学習用番組は非常に少ないのが現状である。その潜在的な可能性の高さにもかかわらず、ポッドキャストは大学英語教育にほとんど貢献していないと言える。

2. Hiroshima University's English Podcast について

以上のような背景を踏まえ、広島大学外国語教育研究センターではオリジナルの英語学習用ポッドキャスト“Hiroshima University's English Podcast”を開発し、毎週番組を配信している。2009年当初には iTunes Store の「教育」部門における「トップオーディオ Podcast」で最高27位にランキングされ（図1）、その後も世界中から毎日1,000件前後のアクセスを得ている。アクセス数は少しずつではあるが増加しており（図2）、広島大学の学生を中心として、国内の英語学習者の認知度も向上しているようである。



図1 iTunes Store のランキング

(2009年2月7日。矢印が27位の Hiroshima University's English Podcast)

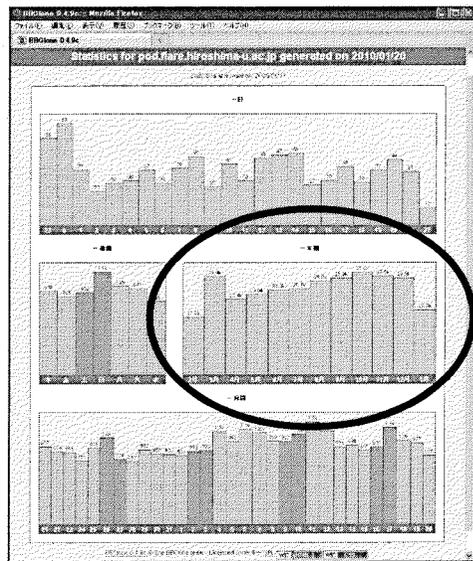


図2 アクセスログ

(2010年1月20日。○で囲んだ部分が2009年2月～2010年1月20日までの月間アクセス数)

Hiroshima University's English Podcast は以下の 3 種類の番組で構成されている。

- ・ドラマで英語を学ぼう
アマチュア脚本家による脚本を集めたサイト Freedrama.com に掲載されているドラマを、作者

の許諾を得て利用し、劇の本編に、語句や表現の解説を加えている。使用言語は英語のみ中級～上級レベル。スクリプトが長いのでPDFファイルを用意し、iTunesでダウンロードできるようにした。

・やさしい英語会話

大学生活など日常の場面での会話を扱う。会話はスロー・ナチュラルの2種類のスピードを用意し、スロースピードの会話を聞いた後で、ネイティブ教員と大学生が語句の解説を行い、ナチュラルスピードの会話を聞くという構成である。使用言語は英語約60%、日本語約40%で、初級～中級レベル。スクリプトをMP3ファイルに埋め込み、iPodの画面に表示しながら聞けるようにした。

・異文化ディスカッション

広島大学に学ぶ留学生をゲストに招き、東広島での学生生活や身近な話題について英語で話してもらおう。これまでに、アメリカ、中国、オーストラリア、シンガポール、カナダ出身の学生が登場した。使用言語は主に英語（約90%）で、オープニングとエンディングは日本語（約10%）を使用している。中級～上級レベル。フリートークなのでスクリプトはなく、重要な語句や表現の解説テキストをMP3ファイルに埋め込み、iPodの画面に表示しながら聞けるようにした。

番組はいずれも15～20分で、広島大学の学生が通学時間を利用して聞ける長さである。教材色を薄め、学習者の興味を維持するため、番組はBGMをバックに男性と女性のかげあいで進行するラジオ風の構成とした。また、近年のいわゆるWorld Englishesの考え方を反映し、会話や劇はノンネイティブを含めた様々な国の学生が演じている。配信にはNucleus CMS（ブログツール）を利用し、iPodとiTunesだけではなく、ウェブブラウザでも利用できるようにし、ブラウザ上でスクリプトを確認したり、MP3ファイルをダウンロードしてパソコンや各種DAP上でも聞けるようにした。

“Hiroshima University's English Podcast”の開発と配信にあたり、以下の4つの課題を設定した。(1) 大学生のレベルとニーズに合ったコンテンツの開発、(2) 多様な聴取形態に対応した配信システムの構築、(3) Podcastingを利用した学習を促すための教員からの働きかけ、(4) 上記の実践を通じて、継続的学習がどの程度推進されるかの検討。これまでの2年間の実践は(1)と(2)に関するものであった。(3)と(4)に関しては、Lauer (2009)でも本ポッドキャストを授業で使用し、主にその番組内容に関する学生からのフィードバックを求めた。以下の報告も、同様に本ポッドキャストを利用した授業実践であるが、今回はポッドキャストによる学習を初めて経験した学生が、その学習スタイルにどの程度の有効性を感じ、また逆にどのような点に困難を感じたかを探るものである。

3. Hiroshima University's English Podcast を使った授業実践

3.1 概要

本授業実践は筆者が2008年度後期に担当したりスニング中心の大学英語科目「コミュニケーションIIB」クラスで行われた。同クラスは広島大学工学部第一類～第四類の1年生による53名のクラスである。英語力を見るとTOEIC IPテストの平均スコアが415.3、標準偏差は61.5で、工学部1年生の学年平均(417.5)に近い。授業は教材提示用のプロジェクター、DVDプレーヤ、スピーカを装備した一般の教室で、CALL教室ではない。言い換えれば、学生はパソコンなどのICTを用いた英語学習に習熟していない者がほとんどである。

同授業が開講された曜日は授業が13週分しか組めず、あと2回分の補講を行う必要があった。この補講2回分の代替として、学生に冬季休業期間を含めた約50日間、以下のような課題を与えた。

- 1) 授業時間外に、Hiroshima University's English Podcastのエピソードを180分以上聴取すること。
- 2) 聴取にあたり「ドラマで英語を学ぼう」「やさしい英語会話」「異文化ディスカッション」の第1回エピソードをそれぞれ必ず含めること。
- 3) 後期終了時に、レポートとして「リスニングログ」とアンケートを提出すること。

ポッドキャストは自学自習用の課題として利用し、通常の授業時間は別の教材を扱った。ポッドキャストを初めて利用する学生のために、iTunesおよびウェブブラウザによる2通りの利用方法も事前に説明した。

また今回はポッドキャストを用いた英語学習を授業に導入し、学生からのフィードバックを得ることが狙いであるため、学習を通じたリスニング能力の推移などについては調査を行わなかった⁴⁾。このため、この課題の評価に限って言えば、リスニングログの記述を通じて学生が180分以上学習したことが証明されていれば合格とした。リスニングログでは、学生がポッドキャストを聞いて学習したことを証明できるよう、以下のような記述を求めた。

- 1) 聴取した番組名
- 2) その番組を聴いた回数
- 3) 番組の評価(最高4)
- 4) 番組で使用されていた印象的な表現、役立つ表現
- 5) 番組へのコメント

また、ポッドキャストの学習環境や番組へのフィードバックを得るためにアンケートを添付し、この部分については成績評価に加えないことを明記した。なお、リスニングログとアンケートは1枚の紙に印刷されているため、アンケートは実質的に記名式であった。アンケートでは以下のような質問を行った。

- 1) 持っているDAPの種類
- 2) Hiroshima University's English Podcastの聴取手段
- 3) ポッドキャストが英語学習に役に立ったかどうか
- 4) 今後ポッドキャストで英語を勉強したいかどうか
- 5) Hiroshima University's English Podcastへのコメント

リスニングログおよびアンケートは50名の回答を得た。

3.2 リスニングログの記述から

先にも述べたとおり、ここでの目的は学生が確かに番組を聴いたことを証明するためのものなので、細かい分析は省略するが、学生の記述から読み取れる傾向について、2点ほど指摘しておく。

- ・多くの学生は、エピソード数が多く、日本語と英語の解説がついた「やさしい英語会話」を中心に学習した。「異文化ディスカッション」は難易度が非常に高いという意見が多数で、「ドラマで英語を学ぼう」の難易度については、学生により意見が分かれた。
- ・特に「やさしい英語会話」では、最初は難しいと感じていた学生も、他のエピソードを聴き進めたり、何度も聴きなおしたりするうちに慣れてきて聴き取りやすくなっているようである。

また、スロースピード→解説→ナチュラルスピードという流れが理解の助けになったという意見もあった。

3.3 アンケート結果

(1) 持っている DAP の種類 (表1)

iPod	21
Walkman	4
その他	4
所有せず	21

表1

このように、半数以上の学生が iPod やウォークマンなどの DAP を持っている。榎田 (2008) で2007年に実施した「デジタルオーディオプレーヤと英語学習」の結果と比べると、iPod の所有率が若干増えていることがわかる。iPod のユーザーは転送ソフトとして iTunes を使っているので、ポッドキャストの理想的な再生環境を有している。

(2) Hiroshima University's English Podcast の聴取手段 (表2)

ブラウザ	27
iTunes	12
iPod	7
iPod 以外の DAP	2
メディアプレーヤ(PC)	2

表2

半数以上の学生が DAP を所有していることを考えると、ポッドキャストを DAP にコピーしてモバイル環境で聴取した者は5人に1人に留まり、やや残念な結果となった。また、プッシュ型の教材配信を学習のペース・メーカーとして利用するには、iTunes 等のアグリゲータを用いる必要があるが、この環境を利用した者は iPod ユーザーを含めて19名に留まり、一方で半数以上がウェブ上で聴取したと答えている。言い換えれば、今回の実践においては、プッシュ型配信は十分に機能しなかったということになる。

(3) ポッドキャストが英語学習に役立ったかどうか (表3)

強くそう思う	4
ある程度そう思う	44
あまりそう思わない	2
全くそう思わない	0

表3

(4) 今後ポッドキャストで英語を勉強したいかどうか (表4)

強くそう思う	2
ある程度そう思う	37
あまりそう思わない	11
全くそう思わない	0

表4

(3) を見ると「強くそう思う」「ある程度そう思う」が圧倒的多数であることから、ポッドキャストを用いた英語学習に対する学生の評価はおおむね肯定的だったと言える。一方で、(4) の「今後ポッドキャストで英語を勉強したいかどうか」の問いになると「強くそう思う」「ある程度そう思う」が減り、「あまりそう思わない」が増えている。このことから、ポッドキャストを利用した英語学習の効用は認めているものの、それを自身の英語学習に積極的に取り込もうとする学生はやや減少している様子が伺える。

(5) Hiroshima University's English Podcast へのコメント (表5)

<p>(肯定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当にこういうのをしてほしかった ・大学に入って英語に触れる機会が減ったので、こういう形でなら英語に触れやすい ・手軽に英語の音声が開けたのでよかった ・パソコンを使うというのが新鮮でおもしろかった ・英語が苦手な自分でも聞けるレベル ・勉強という感覚ではなく楽しく聞けた ・リスニング力が向上したと感じた ・ドラマはスクリプト・解説がわかりやすかった 	<p>(否定的意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを開くのが面倒 ・iPodに入れるのがめんどくさい ・自分から聞こうとは思わない ・異文化ディスカッションのスクリプトをつけてほしい ・番組内容の面白さに差がある ・一つ一つをもう少し短い時間にすべき ・スクリプトの日本語訳をつけてほしい ・iTunesではスクリプト(ドラマのPDFファイルのこと：筆者注)の場所がわかりにくい
---	---

表5

これらのコメントを見る限り、学習時間の確保によるリスニング力の向上、手軽さ、レベルに応じたコンテンツの選択といったような、ポッドキャストを用いた英語学習のメリットと効果について、多くの学生が認めていることがわかる。否定的意見のうち最初の3つ(「パソコンを開くのが面倒」「iPodに入れるのがめんどくさい」「自分から聞こうとは思わない」)は、iPodやパソコンを英語学習に使うこと自体に極めて強い抵抗感を示しているが、それ以外はシステムやコンテンツに関する不満で、改善可能なものばかりである。前者の否定的意見については、ICTを使った学習やコンテンツに魅力を感じなかったからかもしれないし、あるいは約50日間という短い期間では、新たなメディアによる英語学習に不慣れなまま、効果が実感できなかったということなのかもしれない。

まとめ

今回の授業実践の結果は以下のようにまとめることができるだろう。

- ・多くの学生はポッドキャストを用いた英語学習に新鮮味とメリットを感じ、意欲的に取り組んだ。
- ・50日という短期間の実践だったため、一部の学生に対しては、その学習効果を実感し、今後の英語学習に活用するための意識付けを行うことができなかった。
- ・DAPよりもパソコン、iTunesよりもウェブ上での利用者が多く、モバイル環境やプッシュ型配信といったポッドキャストの特性があまり活かされなかった。

3.5 今後の課題：ポッドキャストの授業での活用

今後の課題としては、(1) 多聴研究への応用、(2) ポッドキャストの継続的利用による英語リスニング力の変化を検証する長期的研究、(3) プッシュ型配信による学習のペース・メーカー的役割を継続的学習に結びつけるための研究⁵⁾、(4) 学生の専門分野を考慮した ESP 教材の開発、(5) 短期の課題ではなく学期を通して、毎回の授業でポッドキャストを利用する教育実践などが挙げられる。

最後に、ポッドキャストを授業に活用するためのいくつかのアイデアを挙げてみる。

- ・授業時間にポッドキャスト教材を利用する場合、副教材としてそれらを用いることができるだろう。もちろん一般のリスニング教材のように、ディクテーションや、コンテンツに準拠した問題練習などの活動を作成してもよいし、難易度の低いものは音読練習やライティング・スピーキング活動に、逆に難易度の高いものは、そのスクリプトをリーディングや語彙学習に応用するなど、学習者と教材のレベルに応じて活用を変化させることもできる。音声素材は学習者が各自で入手できるため、授業で取り上げた教材を用いて復習や宿題を課すことも容易である。
- ・近年英語教育では、いわゆる graded readers を利用した多読の実践が盛んに行われているが、ネット上に無数に存在する英語ポッドキャスト群を一つのライブラリに見立て、授業時間外の「多聴活動」に応用することも可能だろう。いわゆる多読三原則（「辞書は引かない」「わからないところは飛ばす」「つまらなかったらやめる」）⁶⁾ をそのまま多聴活動に当てはめ、学習者個人の興味とレベルにあった番組を自由に選ぶことで、インプットの絶対量を増やすのである。また多読活動においては、読んだ本について振り返りの機会を与えるために、学習者によるレビューの公開やグループディスカッションを取り入れることも多いが、ポッドキャストにおいても同様の活動を取り入れたら、学習者同士の情報交換や学びあいの促進も図れるであろう。

4. おわりに

ポッドキャストの数は増えつつあり、大学英語教育への活用は大きなメリットがあると思われる。Hiroshima University's English Podcast のコンテンツ開発および配信のシステムがほぼ整備されてきたので、今後は同ポッドキャストを中心とした教室での実践例を積み重ねるとともに、大学内で実施されている他の英語教育プロジェクトと連携させつつ、その効果的な利用方法を探って行きたい。

付記 本研究は、科学研究費補助金 基盤研究(C) 19520491による研究成果の一部である。

注

- 1) “Hiroshima University’s English Podcast” の URL は <<http://pod.flare.hiroshima-u.ac.jp/>>。iTunes では iTunes Store を “Hiroshima University” のキーワードで検索するとアクセスできる (iTunes Store でのポッドキャストの利用は無料)。
- 2) iTunes Store に登録されている日本国内のポッドキャストを「英語」でキーワード検索すると、2008年1月は159件だった (榎田 2008) のに対し、現在は254件に増えている。また、国内最大のポッドキャスト専門ポータルサイト “Podcasting Juice” の「語学」ジャンルには、202件の番組が登録されている。(いずれも2010年2月10日現在)
- 3) いわゆるストリーミング形式のネットラジオとは異なり、ダウンロードしたポッドキャスト番組は、Windows パソコンに付属している Window Media Player などを用いて再生速度の調整ができるので、英語学習には有用である。
- 4) Lauer and Enokida (2010) では、学習意欲の高い学生を対象に、ポッドキャストの継続的聴取がリスニング力に及ぼす影響を探るための縦断的研究の結果を報告している。
- 5) 尾関(2009)は、iPod や携帯端末への教材配信を行っても学生による利用がなかなか進まない現状を指摘し、定期的とはいえ受動的に教材を受信するだけでは学習活動につながらないかもしれないと述べている。自学自習用教材としてポッドキャストを導入しても、それだけでは授業期間終了後の自発的学習には結びつきにくいようである。ポッドキャストを授業そのものと密接に結びつけながら、学習の成果を学習者に実感させられるような仕組みづくりが必要だと思われる。
- 6) 多読三原則については酒井、神田(2005)などを参照のこと。

参考文献

- Lauer, J. (2008). High-quality Podcasts for Learning English. 『広島外国語教育研究』 11, 95-106.
- Lauer, J. (2009). Podcast Power: Hiroshima University’s New English Listening Materials. 『広島外国語教育研究』 12, 85-94.
- Lauer, J., Enokida, K. (2010). A Longitudinal Study: The Effectiveness of Podcasts for Learning English. 『広島外国語教育研究』 13, 75-91.
- 池田真生子 (2008). 「Podcasting の利用法」竹内理 (編著) 『CALL 授業の展開—その可能性を拓げるために』 (163). 松柏社.
- 榎田一路 (2008). 「ポッドキャストイングを英語学習に利用する上での予備調査とその考察—購読型教材配信によるモバイル英語学習システムの構築に向けて—」 『広島外国語教育研究』 11, 69-81.
- 榎田一路 (2009). 「英語学習用ポッドキャスト “Hiroshima University’s English Podcast” —オリジナル番組の制作と配信システムの構築—」 『広島外国語教育研究』 12, 71-81.
- Enokida, K. (2009). Delivering and Developing English Learning Podcasts: Applications for Self-learning. *8th AsiaCALL Conference Proceedings* (November 19-21, 2009. Sanata Dharma University, Yogyakarta, Indonesia), 33-48.
- 尾関修治 (2009). 「大学でのメディア活用法」 『英語教育2009年10月増刊号』 (12-13). 大修館書店.
- 酒井邦秀, 神田みなみ (2005). 『教室で読む英語100万語—多読授業のすすめ』. 大修館書店.

ABSTRACT

Using Original English Learning Podcasts in Classrooms

Kazumichi ENOKIDA

The Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

In this paper, a classroom practice using Hiroshima University's English Podcast and the survey results are reported. The research was conducted in Enokida's "Communication IIB", an English listening course, in 2008. The class consisted of 50 first-year students from the Faculty of Engineering, Hiroshima University, most of whom were not familiar with learning English using ICT (Information and Communication Technologies). To make up for two lessons (180 minutes in total) missing from 15 required lessons during a semester, students were given about 50 days to listen to the episodes they like from Hiroshima University's English Podcast for at least 180 minutes outside the classroom, and submit a paper and fill in a questionnaire.

The results of this classroom practice are reported, especially focusing on the students' feedback in the questionnaire. They can be concluded as follows: 1) Most students found learning while using podcasting to be a new experience, and they felt podcasts were a useful tool. They were more or less happy with using podcasts. 2) As this practice was conducted in a short period of time (50 days), some students could not feel the effects of learning with podcasts. 3) Most of them listened to the podcasts on a PC, which means that the push-style of podcasting did not function well enough as a "pacemaker" for learning.

From this classroom practice, the following questions arise: 1) Would the students have been more motivated if ESP materials, like technical English, had been provided? 2) Would it make a difference if a longitudinal study were conducted, in which students learned with podcasts for several months? 3) Would students become comfortable with using podcasts if they were used in every class, not just for a short-term assignment?